

2015年 9月2日

このところ仕事にかまけて、あまり考え事をしていない。やはり一日一度は、感動、あるいは感激とか感心することが重要だ。アニメなどもその度に感動することが多い。

この8月29日、30日、二日続けてよさこい踊りを見物に行ってきた。29日は原宿表参道よさこい、30日は調布よさこい、を見た。表参道よさこいは30日が表参道での演舞だったが調布と重なるため29日のNHK前の道路で行なわれたのを見た。表参道よさこいはメジャーな大会で、調布よさこいはローカル色の濃いものであった。それぞれ特徴があり面白かった。表参道よさこいは、その筋では有名どころのチームが参加しており、なんと言っても構成メンバーが若い。このためよさこいの演舞もかなり激しいもの、衣装も派手なものが多く、よさこいの特徴である、自由さが現れていて面白かった。小雨の中ではあったが、演舞者に敬意を表して私も傘をささずに撮影させてもらった。

替わって翌日の調布よさこいは近隣のよさこいチームが出席しており、なんと言っても年取った連中が多かった。このため、あまり激しい動きはなく、また衣装も表参道と較べると穏やかな雰囲気であった。よさこいは、もともと高知県の商店会の盆踊りとして始まったと言われる。こうした意味では、盆踊りの延長のような調布よさこいのほうが盆踊りの性格が強いのかもかもしれない。盆踊りと言うものが本来、お盆に帰ってきた先祖を送り出す行事として始まったと言われており、調布よさこいが盆踊りの延長上にあり老人、子供の参加が多いのも頷ける。鳴子を鳴らしながら道路を進んでいく盆踊りと言ってもよいかもかもしれない。一方で表参道のようなエネルギッシュなものも、よさこいの特徴があって面白い。これはアニメで知ったのだが、よさこいは振り付けも自由、演舞曲も自由、と言われており、鳴子を持たなくても踊っているものもある。ただ各よさこいにより鳴子は必須のともあるようだが、また曲も著作権のあるものは、断りを入れて使う必要があるようだが、基本的には何でもありと言ったところ。

こうしたことが、そこら辺のストリートダンサーを巻き込んで、各地でもようされている原因と思われる。阿波踊りのような決まりきった踊り方などないため、自分らで曲にあった踊り方を工夫すれば良いと言うようなところが、昨今の目立ちたがり屋が増えたことと相まって人気があるのかもかもしれない。決して泡お踊りのような伝統色の高いものが悪いと言うわけではないが、若者も老人も敷居の低いところが良いのではないだろうか！ 昨年からよさこい見物を始めたが、今年はじめに見た湘南よさこい等、また今年も見られたかと思うと、なんとなく感激してしまい涙ぐんでしまった。

もし興味があれば、アニメのハナヤマタというDVDを見てみることを薦める。これはアメリカからの転校生が日本の中学で、小さい頃日本で見たよさこいに感激して、日本の中学でよさこい部を作るために奔走し、よさこいに参加する話だが、その中でよさこいのルール等の説明も出てくる。昨年このアニメを見た後、よさこい見物してみたいと思っていたところ、たまたま坂戸よさこい 2014 を見る機会があり、アニメの雰囲気を思い出しながら見たのがきっかけであった。この坂戸よさこいも割りとメジャーな大会なのかもしれない。駅前のメインストリートを全て封鎖して町中でお祭り騒ぎであった。ある意味町挙げての行事といったところで、京都の葵祭りのような町ぐるみの祭りの雰囲気がした。各地域の雰囲気、特徴がさらに出せれば、定着した文化になっていくのかもかもしれない。こうした若者を巻き込んだ文化の始まりに立ち会っているようでワクワクしてくる。